

「JRの地方切り捨て許さない」

内房線守る会 外房線守る会 国交省に署名1万2227筆を提出

「内房線と地域を守る会」（松苗禮子代表）と「外房線と地域を守る会」（藤平輝夫会長）は11月30日、国土交通省を訪れ、館山直通の快速・特急列車の復活などを求め、「JR東日本外房線の利便性と安全性向上を求める署名」1万2227筆の署名を提出しました。



要請行動には、「内房線と地域を守る会」から6人、「外房線と地域を守る会」から5人の計11人が参加。地元選出の青木愛・参議院議員

内房線
外房線

ダイヤ改善など要望書

国に県南部2団体

J R内房線、外房線の利便性向上を求める県南部の二団体が十一月二十日、国土交通省を訪れ、石井啓一

国交相宛てにダイヤ改善などのために、監督官庁としてJR東日本への働き掛け強化を求める要望書を提出した。

J R東日本が今年三月に行ったダイヤ改正では、内

房線は午前十一時台の上下線一本ずつ削減。外房線は午後九時台の大原発上総一ノ宮行きが廃止されるほか、上下線五本が区間短縮になった。

要望に訪れたのは「内房線と地域を守る会」（松苗礼子代表）と、「外房線と地域を守る会」（藤平輝夫会長）の会員ら。

内房線については、館山発着の特急列車復活や、館

山 千葉間の普通直通列車の増発などを求め、外房線は今年三月のダイヤ改正で廃止された列車を、次期改正で復活させることなどを求めた。

両路線ともに、ダイヤ改正前には関係自治体や利用者への説明も要求した。外房線沿線住民ら利便性向上を求める一万二千二百一十七人分の署名も提出した。

内房線と地域を守る会の担当者は「地域の足をを守るため、国交省には要請を重く受け止めてもらいたい」と話した。

外房線と地域を守る会の担当者は「JR東日本千葉支社にも署名を提出し、利便性向上へ訴えていきたい」と語った。

（山口登史）

も同席しました。

「内房線と地域を守る会」は昨年に続き2回目の要請となり、館山直通の快速・特急列車の復活を求めるとともに、今回、内房線沿線の高校生アンケートに基づき、南三原駅の営業時間及び券売機の改善などを求めました。

通勤・通学にも大きな影響

「外房線と地域を守る会」は、今年3月のダイヤ改正で列車が削減され通勤・通学に大きな影響が出ていること、さらにJR東日本がワンマン運転導入を検討していることなどを指摘し、列車の削減、ワンマン化は地域の過疎化、人口減少に拍車をかけることになり、深刻な問題であることを訴え、1万2227筆の署名を提出しました。

*

要請、署名提出を受けて国土交通省の鉄道サービス政策室長は、「JRには、地域の声を把握するように伝える。今回、アンケートによる具体的データを出していただいた。重要だと思う。データを踏まえての要望があったことをJRに伝える」と回答しました。

J Rのローカル線―地域切り捨てに対する地域の怒りは大きくなっています。削減された列車の復活、ワンマン運転導入を阻むために、地域と一体となって職場から闘おう。